Awara News
あわらニュース vol.58
平成27年12月24日発行

「多くの人の笑顔のために」

- 重症心身障がい、難病、長寿医療を柱とし、地域に密着した専門医療を提供します。
- 社会的なアプローチを組み入れ、患者中心の心あたたまる医療を実施します。
- 臨床研究、教育研修、安全管理をとおして、常により質の高い医療を追求します。
- 公益性を確保し、公立的で自立した病院経営を推進します。

5階病棟看護師長　大藏真由美

11月20日、『第8回　坂井・あわら高齢者医療研究会』を開催し、114名の参加がありました。今回は、『もし、食べられなくなったら ～本人の意思に基づく非がん高齢者の終末期医療の実現にむけて～』をテーマに各施設の実践報告の発表と、国立研究開発法人　国立長寿医療研究センター　在宅連携医療部長　三浦久幸先生の特別講演がありました。

実践報告は当院から「家族の代理意思を含めた高齢者のリビングウィル（事前意思表明）の取得」と「人工的水分・栄養補給方法の選択について」の現状報告、特別養護老人ホーム芦原メロン苑と金津雲雀ヶ丘寮からは「施設での看取りの取り組みについて」の報告を行いました。特別講演は、厚生労働省のモデル事業である、平成26年度『人生の最終段階における医療体制整備事業』から、高齢者の尊厳を守り、最善の医療とケアを実施するために、「早期から患者や家族と関わり、意思の確認をする」、「病院での看取りから地域への看取りへ」の重要性について話され、生活の場で終末期を過ごすための当院と施設との連携は、医療体制整備事業の方針と同じであることを実感しました。

高齢者がよりよい人生の最終段階を過ごすために地域での対応がますます重要となってくるのを感じ、今後も地域の関連機関と連携を図りながらこの研究会を継続していきたいと思いました。

これまで、そしてこれから

診療部長
川満　徹

当院が新病棟に衣替えして、早や4年が経とうとしています。重症心身障害児（者）病棟は、それまでの平屋建てから3階、4階の縦に伸びる形で病床を運営しており、病棟や部屋の構造も、それまでとがらりと趣きが変わっていわゆる病院らしい形態になりました。この事は、従来の療養施設型の穏やかな雰囲気が損なわれた反面、感染症管理を初めとして医療的ケアを行う際にはメリットを実感出来る構造になったかなという印象です。

最上階の6階には通所で来られる患者さんとスペースを共有しながら日中活動を行っています。これまで入所されている方たちの外部との交流が非常に限られたものだったのに対して、在宅で生活介護サービスに通われている方たちとの交流の場が広がった事は、とても大きな発展だったかなと思っています。

現在当院の重症心身障害児（者）の方たちにへのサービスとして入所支援に加え、在宅の方たちに対しては、通所サービス（生活介護、児童発達支援）、短期入所を実施しており、年々利用される方も増加しており、また鯖江や越前市などの遠方からも利用される方が出て来ています。

今後、入所支援、在宅支援ともに利用される方たちのニーズに適切に対応出来る様な工夫を考えながら、より一層の発展が得られる様頑張っていきたいと思っています。

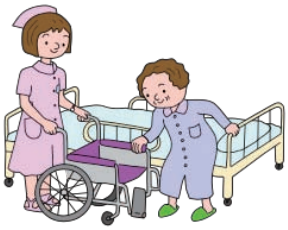
それに加え、当院では今年度から訪問看護サービスの提供も始めました。今のところ重症心身障害児（者）の方のご利用はありませんが、その方たちに対しても実施していきたいと考えていますので、ご希望の方がいらっしゃいましたら是非ご連絡頂ければ有難いです。

フレイルについて

副院長 見附 保彦

日本老年医学会は、高齢になって筋力や活力が衰えた段階を「虚弱」を意味する英語「frailty」から「フレイル」と名付け、予防に取り組むとする提言をまとめました。

健康と病気の「中間的な段階」を意味し、提言では75歳以上の多くはこの段階を経て要介護状態に陥るとしています。本邦での統一された診断基準はまだ発表されていませんが、米国老年医学会は①移動能力の低下②握力の低下③体重の減少④疲労感の自覚⑤活動レベルの低下、のうち三つが当てはまるとこの段階と認定しています。この米国の基準を用いた愛知県に住む65歳以上の高齢者約5千人を対象とした国立長寿医療研究センターの調査では、11%が該当したと報告されています。



この提言の作成委員である国立長寿医療研究センター荒井秀典副院長はフレイルの予防法として以下を挙げています。

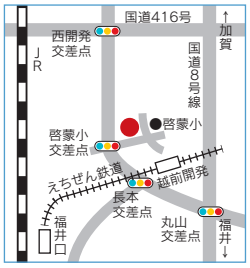
- 十分なたんぱく質、ビタミン、ミネラルを含む食事
- ストレッチ、ウオーキングなどを定期的に行う
- 身体の活動量や認知機能を定期的にチェック
- 感染予防（ワクチン接種を含む）
- 手術の後は栄養やリハビリなど適切なケアを受ける
- 内服薬が多い人は主治医と相談

健康寿命を延ばすために、あわら病院では医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、リハビリスタッフらとの多職種共同でこれら課題に日々取り組んでいます。

地域医療連携施設のご紹介

あわら病院と連携している医療機関等をご紹介します

はまだ内科クリニック



はまだ内科クリニック
〒910-0842 福井県福井市開発1丁目203　TEL（0776）97-5820

当院は今年開院してから7年目を迎えました。

日常よくある症状に対応しながら、重大な疾患が隠れていないか注意していく総合内科と糖尿病、高血圧、脂質異常症などの生活習慣病に対して早期からきめ細かい対応をしていくことを2本の柱として診療を行っています。

県立病院、済生会病院、福井循環器病院と距離的にも近く、緊密に連携を取りながら、必要な時には、専門の先生方につなぐようにしています。

長年、あわら病院に勤務させて頂いた縁で、あわら市の方々にも通院していただいています。あわら病院のスタッフの皆様には、エコー、内視鏡の検査、緊急のご紹介などでたいへんお世話になっています。これからもどうぞよろしくお願いします。

院長　濵田　明

診療科目	診療時間	月	火	水	木	金	土	備　考
内　科	9:00～12:30	○	○	○	○	○	○ ~12:00	休診日 木曜午後 日曜・祝日
	14:30～18:30	○	○	○	×	○	○ 13:00~15:00	

「あわら市民文化祭」に参加して

看護師　福嶋志保子

天候に恵まれた11月1日、今年もあわら市中央公民館で行われた「あわら市民文化祭」に参加いたしました。あわら病院は、血圧・体脂肪測定、骨密度測定、医療相談、栄養相談、在宅看護相談、ちびっこ白衣体験コーナーを設けさせて頂きました。多くの市民の方の参加があり、109名の方が測定コーナーに、ちびっ子白衣体験には26名の皆さま方に来て頂きました。

骨密度測定には、10代の方から80代の方まで参加して頂けました。骨密度は20歳をピークに加齢とともに低下していくため、測定された方の中には、「自分は何ともないと思っていた。こんなに骨密度が少ないなんて。何に気をつけていったらいいの？」といった声も聞かれ、医師や管理栄養士に熱心に相談されていました。また血圧測定コーナーでは「去年来た時に血圧を測ってもらって値が高かったから病院に行くようになりました。」と2年連続で参加してくださった方もおられ、市民の皆さまの健康の維持に少しでもお手伝い出来たかなと感じられとてもうれしく思いました。

ちびっこ白衣体験コーナーでは、ご兄弟で仲良く記念撮影される方など、小さなお医者さんや看護師さんはとてもかわいく、微笑ましいひと時となりました。

普段、病院の中だけで看護に携わっているため、多くの市民の皆さまにお会いでき、とても有意義な1日でした。参加してくださった市民の皆さま、ありがとうございました。

外来担当医表

（平成28年1月4日から）

診療科		月	火	水	木	金
総合	内科	津谷	鈴木	（交替制）	見附	向井
	小児科	大坂＊	川満＊	大坂＊	大坂＊	川満＊
専門	血液・リウマチ			津谷／浦崎＊	津谷	
	痛風				津谷＊	
	生活習慣病			鈴木（第1・3）	交替制（第2・4）	
	老年			桐場（第2・4・5）		桒田
	神経			林（第1・3・5）		
	循環器	見附	見附			
	外科	齊藤	齊藤	齊藤	齊藤	齊藤
	整形外科	阿部				
	眼科				吉岡＊	
	皮膚科		若原			若原
	地域ケア					桐場
	禁煙外来	見附	見附			

● 受付時間8:30～11:30　● 黄色枠は予約制　● ＊印は午後診察　● 休診日／土・日・祝日・年末年始

※皮膚科の診察は、火曜日・金曜日の午前中（9:00～11:00）です。

※神経内科の診察は、第1・3・5水曜日（8:30～11:30）です。　※専門内科の午後診察は、14:00～16:00です。

※禁煙外来の診察は、月曜日（8:30～11:30）・火曜日（10:00～12:30）です。

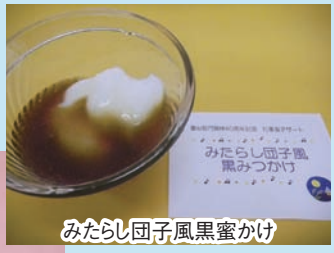
栄養管理室便り

栄養管理室 主任栄養士　内川 厳志

これまで、重症心身障がい児（者）病棟の誕生日会に提供する手作りデザートは、プリンにチョコレートや抹茶のソースをかけて提供していましたが、今年度は、新しい手作りデザートの提供を試みました。

生の果物を使った『果物ムース』、お粥を団子風に飲みこみ易く調整した『みたらし団子風黒蜜かけ』など様々なデザートを開発し、利用者の方々からも好評でした。

これからも美味しい手作りデザートの提供に努めてまいります。



みたらし団子風黒蜜かけ

スイカムース

《手作りデザートの一例》

独立行政法人 国立病院機構 あわら病院
福井県あわら市北潟238-1　TEL.0776-79-1211（代表）FAX.0776-79-1249
〈地域医療連携室〉TEL.79-1212内線（785）FAX.0776-79-1261
URL http://www.awara-hosp.jp/

【診療科】内科、小児科、外科、皮膚科、血液・腫瘍内科、リウマチ科、神経内科
老年内科、循環器科、整形外科、眼科、リハビリテーション科
【病床数】172床
【教育】日本内科学会認定教育関連施設、日本血液学会、日本リウマチ学会認定施設

交通のご案内

えちぜん鉄道「あわら湯のまち」駅より（5km）
①京福バス（北潟花菖蒲園行き、あわら病院前下車）
②乗合タクシー（デマンド交通）［事前予約が必要］

JR北陸本線芦原温泉駅より（10km）
①京福バス（あわら湯の町駅で乗換）
②乗合タクシー（デマンド交通）［事前予約が必要］

※出発時間は、受付に備え付けの時刻表、またはホームページ（交通案内）をご覧ください。